



目次	説教 生きるにしても、死ぬにしても …… 池永 倫明 …… 1
	大信仰問答 CATS・愛⑮
	エッセイ「第9章 教会」 …… 小林 宏和 …… 2
	新約聖書に聴く「主の祈り」(9) …… 後藤 憲正 …… 3
	教会、この地とともに⑯ 横須賀教会
	生きている者と死んだ者とをさばくべき
	キリスト・イエスのみまえで …… 篠塚 予奈 …… 4
	SDGsについて考える⑤（目標13）
	風の翼に乗って …… 山本 盾 …… 5
	次世代へのメッセージ⑨
	日本キリスト教会に育てられて
	～全てが神の御手のうち～ …… 斎藤 義信 …… 6
	み言葉に照らされて まだ若く、希望に燃えて …… 坂井 愛子 …… 7
	さんびかに生かされて 讃美歌に親しんで …… 中山 啓子 …… 7
	現場から 朗読奉仕という恵みに与って …… 奥野 玲子 …… 8
	教会ニュース …… 8



生きるにしても、死ぬにしても

わたしたちの中には、だれ一人自分のために生きる人はなく、だれ一人自分のために死ぬ人もいません。わたしたちは、生きるとすれば主のために生き、死ぬとすれば主のために死ぬのです。従って、生きるにしても、死ぬにしても、わたしたちは主のものです。キリストが死に、そして生きたのは、死んだ人にも生きている人にも主となられるためです。

（ローマの信徒への手紙14章7－9節）

いけ なが とも あき
池 永 倫 明

地上と天をつなぎ、神によって死から甦えられた主イエス・キリストとの聖書と聖霊による交わりによって、わたしたちが生き死ぬことができる喜びが告げられます。わたしたちはこの使徒パウロの喜びの言葉を遠い世界から響く雷のように聞きがちです。この世界は、「どうせ明日はどうなるかわからない。どうせ死ぬ身だから、今日は食べ、飲み、楽しく過ごそうではないか」と考え、「自分の生命は自分のものだから、不条理な死を自分自身で引き受けてゆきたい」と覚悟しているようにも見えます。

しかし、この世界の中に、あたかも隕石が投げ込まれるように、「誰も自分のために生きていない」という異質な言葉が語られます。誰も空虚なところで生き、死ぬのではないと語られます。

もう一步踏み込んで、キリストにある者は、全能の神、愛と正義の神から見捨てられないという宣告がなされているのです。使徒パウロは、ここで具体的なことは語らず、全能の神は、あなたがたに最善のことをなして下さる、と語るのです。神が救い主としてつかわして下さった御子イエス・キリストは、全人類の手によって、十字架にかけられ、屈辱と悲惨のどん底の苦難を受けられましたが、愛と正義の全能の神は、キリストの死からの復活によって応えられました。キリストの十字架によって、罪の力、死の力の根源を滅ぼし、罪の赦しを引き起こして下

さったのです。

わたしたち人類（異邦人）は、神の愛によって、地上に生命を贈られた存在なのに、与えられた自由と能力を悪用して神に背を向けているのです。そのわれわれ異邦人は、キリストの救いのみわざによって、罪赦された罪人として、新しい生命を神から贈られたのです。神は最善のことをわたしたちになし遂げて下さったのです。キリストによるこの救いの出来事にあずかる者は、キリストとの運命共同体となるのです。具体的なことは、使徒パウロには告げず、「最善のことを神は信仰者に与えて下さる」と告げ、「わたしたちの考えるところは一部にすぎないが、神は最善のことをなして下さる」という希望を語るのです。具体的なことは、その人、その人によって違っているでしょうが、愛と正義の神はその人に最善なことをイエス・キリストを通して、み心としてなし遂げて下さるのです。

ですから、今、全宇宙を支配しておられる天上のイエス・キリストのご支配を聖書と聖霊の導きによって、生けるイエス・キリストとの交わりの中で、福音の証人として伝え、このいまだ罪の中で困窮する世界に、罪に染まることなく連帯し、福音を宣べ伝え、直面する国の行政が平和と社会福祉に全力で仕えるよう見張る務めも果すのです。

（近畿中会教師）